

2 4歳児の発達の特徴と指導のポイント、保護者との連携

～4歳児の特徴～

こんなに早く走れるよ！

体を思いきり動かして遊ぶ心地よさを味わい、様々な運動能力を身に付けていきます。活動的な遊びを好み、多様な動きを楽しみながら繰り返し取り組む姿が見られます。

できるかなあ～？ やってみる！！

自分が受け止められているという安心感に支えられて、物や人との関わりが活発になってきます。時々「自分はできそうもない」という不安感から、慎重になったり消極的になったりもしますが、保育者の温かいまなざしや言葉掛けに支えられて乗り越え、次第に自信をもって行動するようになっていきます。

一緒に遊ぶと楽しいね！

自分のイメージを相手に伝えたり、相手のイメージを受け止めたりして、気の合う友達と継続して遊べるようになります。共に遊ぶ幼児同士においては、場や物、人の見立てが共有されることで、遊びに必要なものを作り出して、それを活用して遊びを楽しめるようになります。

おしゃべりだいすき！

経験したことや感じていることなどの自分の思いを、言葉にして相手に伝えられるようになってきます。伝えられたことに対して、関心をもって聞こうとする態度も育ってきて、相互に言葉によるやり取りが活発になってきます。

～指導のポイント～

心身共に著しい成長が見られる4歳児の指導においては、まず、幼児が存分に活動できるための時間や場の保障が求められます。次に、4歳児なりに目的をもって、思いを表わそうとしている姿を受け止め、取り組んでいる場面では、それが他児への刺激になるようにします。幼児同士が多様な刺激を受け合いながら、共に活動することの楽しさを十分に味わえるようにして、幼児同士の関係を育てていきます。

保護者との連携	
4～5月	6～9月
<ul style="list-style-type: none"> ・進級の喜びを共有しつつ、新しい環境や生活を楽しめるよう配慮しましょう。 ・4歳児は友達との関わりが増えるので、トラブルや友達関係などの不安なことは、担任をはじめ園の職員にいつでも相談できることを伝え、1年間の成長を共に見守る関係づくりをしていきましょう。 ・園での様子や家庭での様子を伝え合い、信頼関係を築きながら、園と協力して子育てしていくことの大切さを伝えていきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観(参加)や行事への参加、個人面談などを通して子供たちの成長を具体的に示すとともに、活動の意義について説明し理解を深めてもらうようにしましょう。 ・遊びや友達同士の関わり方などで様々な変化が見られる時期なので、保護者が育ちの見通しをもてるように子供たちが相手との関わり方を学んでいることなどを知らせていきましょう。 ・子供が人との関わりに悩むときには、家庭との連携をより密にし、共に成長を支えていくようにしましょう。
10～12月	1～3月
<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や生活発表会などの行事については、その教育的意義に触れ、勝ち負けや出来栄ではなく、楽しんでいることや自分なりに頑張っている姿を大事にするなど、行事において大切にしていることを伝え、共通理解を図りましょう。 ・個人面談では、日常生活や行事への取組、友達との関わりの中で変容した子供の姿を伝え、成長を喜び合うとともに課題も共有し、園と家庭が協力して子育てしていくように話をしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの進級に向けての活動の様子(お別れ会、修了式などへの取組など)を伝え、子供の成長を共に喜び合い、保護者も一緒に進級に期待をもてるようにしていきましょう。 ・いろいろなことが一人でできるようになる一方で時には甘えたい気持ちも出てくることを知らせ、子供の話に耳を傾けたり、手助けをしたりして温かく受け止めていくことが大切であることを伝えましょう。

4歳児年間の流れ～～おさえたいポイント（◎ねらい ○内容 ♡環境・援助）～～

	生活	人とのかかわり	学 び
ねらい	◎進級したことを喜び、園生活を楽しむ。 ◎新しい環境での生活の仕方が分かり、安心して動けるようになる。	◎保育者や友達に親しみをもって楽しく過ごす。 ◎遊びたい友達やその場にいる友達と同じ遊びを楽しむ。	◎自分で好きな遊びを見付け、友達と関わりながら楽しむ。
4 . 5 月	○進級した喜びを感じ、自分でできることは自分でする。 ○新しいクラスでの生活の仕方を知る。 ♡新しい環境に緊張したり、不安定になったりするので、子供の様子に応じて一人一人が安心して生活できるよう一人一人の思いを十分に受け入れていきましょう。 ♡所持品の始末や片付け等、自分なりにやっていたいこうとする気持ちを認め、個人差に応じて丁寧に繰り返し指導しましょう。	○保育者に親しみをもって遊んだり生活したりする。 ○遊びたい友達と同じ場で遊んだり、同じものを身に着けたりして関わりながら動くことを楽しむ。 ♡保育者や友達と触れ合う時間を十分に保障しましょう。 ♡友達と関わって遊べるような場（巧技台の場、遊びのコーナー等）や遊び方を提示し、保育士・教員も遊びの仲間になりながら友達との関わりの楽しさを感じられるようにしましょう。	○自分なりのよりどころとなるものを見付けて、自分のしたいことややったことを動きに出しながら、好きな遊びを楽しむ。 ○自分の思いや考えたことを言葉で、保育者に伝えようとする。 ♡4歳児になり使えるようになった遊具、用具の使い方を保育者が一緒に遊びながららせていきましょう。 ♡新しい環境を試したり、工夫したりする時間を十分に保障しましょう。
ねらい	◎保育者や友達と関わりながら、生活の中で必要なことを自分でしようとする。	◎自分の気持ちや動きを出しながら、友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。	◎興味をもったことを繰り返し試したり、じっくり取り組んだりする。
6 . 7 . 8 . 9 月	○夏の生活習慣や雨の日の生活の仕方を知り、自分でしようとする。 ○手洗い、うがいの大切さが分かり行う。 ♡体調を崩しやすい時期なので、健康に十分配慮し、休息、水分をしっかりとる等快適に過ごせるようにしましょう。 ♡食事、休息、手洗い等を通して健康・安全の意味や大切さを知らせていきましょう。	○クラスのみなどと過ごす中で、みんなで動くことを楽しんだり、自分なりの動きを楽しんだりする。 ○友達と遊ぶ中で、自分の思い通りにならないこともあることを感じる。 ♡クラスのみなどと一緒に過ごすことが楽しいと感じられるような活動を工夫して取り入れましょう。 ♡友達とのぶつかり合いの中で十分に思いを出させ、互いの思いが満足できるような方法を一緒に考え、友達との遊びを楽しめるように援助していきましょう。	○自分の気持ちやイメージを言葉や動きに出し、保育者や友達に伝えようとする。 ○いろいろな素材や材料に興味をもって自分から関わったり、自分なりに工夫して描いたり、作ったりすることを楽しむ。 ♡自分なりのイメージを出したり実現したりできるように、イメージに適した素材や材料、用具などを遊びの流れに応じて、提示しましょう。 ♡興味をもって自分から様々な素材や材料に触れられるように用意したり、一人一人の取組に応じて用具の使い方を知らせたりしていきましょう。
ねらい	◎生活に必要なことが分かり、自分でできることは自分でしようとする。	◎クラスの友達と一緒にする楽しさや友達とのつながりを感じる。	◎様々な活動に取り組む中で、試したり工夫したりして自分の力を出していく楽しさを味わう。
10 . 11 . 12 月	○手洗い、うがいの大切さが分かり自分から進んで行う。 ○自分の身の回りの物の始末や片付けなどの仕方が分かり進んで取り組む。 ♡手洗い、うがい、食事のマナー、着替えなど、一人一人の生活習慣を毎日の繰り返しの中で再確認していきましょう。 ♡秋から冬の生活の仕方について、クラス全体に投げ掛けたり場面を捉えて個々に知らせたりしながら、必要感をもって自分ができるようにしていきましょう。	○自分の考えを出したり、友達の思いを受け入れたりしながら遊ぶ中で、気持ちが通じるうれしさを感じる。 ○友達と楽しく過ごすためには守らなければならないことがあることに気付いていく。 ♡様々な場面を通して、友達の中で、自分の思いを出していくことの大切さを知らせていくとともに、時には自分の気持ちを抑えることが必要であることにも気付かせていきましょう。 ♡友達とのトラブルの場面では、それぞれの考えを受け止め仲立ちをしながら、様々な感情を味わい相手の気持ちにも気付いていく機会となるようにしていきましょう。	○自分なりの動きやイメージを出したり、イメージを広げたりしながら、クラスのみなどと一緒に様々な表現活動を楽しむ。 ○遊びに必要なものを考えて作ったり、遊びの場を構成したりしながら友達と大まかなイメージを共有して遊ぶ。 ♡共通のイメージをもったり、イメージが広がったりする題材や、みんなで動きや声を合わせる楽しさを味わえる活動など様々な表現を楽しめる内容を工夫しましょう。 ♡互いの遊びのイメージが伝わっていくように、それぞれの言葉や動きをつぶやいたり、相手に分かるように言葉を補ったりして仲立ちをしていきましょう。
ねらい	◎生活に必要なことが分かり、自分から気付いてしようとする。	◎友達と遊ぶ中で、自分の思いや考えを出したり、友達の思いや考えに気付いたりして、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。	◎自分なりの目的に向けて考えたり、工夫したり、試したりして遊ぶことを楽しむ。
1 . 2 . 3 月	○冬の生活に応じた生活の仕方を自分なりに考えて行う。 ○5歳児が行っている当番の仕事のやり方を教えてもらい、保育者と一緒にやってみようとする。 ♡自分でしようとする姿、自分なりにやっているところを十分に認めていきましょう。 ♡5歳児の生活の仕方を聞いたり、当番活動の引継ぎの機会を設けたりして、5歳児になることへの期待がもてるようにしましょう。	○友達と自分のイメージや考えを伝え合ったり、友達の動きや言葉に応じたりしながら遊ぶ楽しさを感じる。 ○友達と一緒に遊びや仕事を楽しみながら、やり遂げようとする。 ♡もうすぐ5歳児になるという期待を十分に受け止め、そのことが、自分で何にでも取り組んでいこうとする意欲につながっていくように援助していきましょう。 ♡一人一人が自分のイメージや思いを出したり伝えたりできるよう、また互いのイメージや思いを受け止めて遊びが進められるように仲立ちしていきましょう。	○自分なりの目的に向けて繰り返し取り組んだり、必要な材料を選んだり方法を考えたり工夫したりしてやり遂げようとし、実現できた喜びを感じる。 ○冬から春への自然の変化に関心をもち、感動したり疑問をもったりする。 ♡自分から目的を見付けて取り組む姿を十分に認めたり励ましたりしましょう。 ♡様々な場面で一人一人のよさや取組を認め、他の子供に伝えることで、クラスの中で、一人一人が自信をもてるようにしましょう。 ♡冬から春への様々な自然の変化に気付くよう言葉を掛けたり、子供の驚きや発見に共感したりしていきましょう。

事例1

4歳児	9月下旬	探検隊になって遊ぼう ～イメージを膨らませて遊ぶことを楽しむ～
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・探検のイメージを膨らませて、遊びに必要な物や場を作り、自分たちで遊びを進めていくことを楽しむ。 ・友達に思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりしながら一緒に遊ぶことを楽しむ。 	

活動の流れ・幼児の姿	○保育者の指導・援助 ★環境の構成
<p>探検隊になって遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き箱やカップ、ペーパー芯などを使い、双眼鏡や水筒、地図など、探検に必要な物を作る。  <ul style="list-style-type: none"> ・海を探検するイメージで積み木の船に乗って、海に見立てた青いシートに魚を並べ、魚釣りをする。  <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が設定した場に関わったり、自分たちで場を作ったりして、探検をしているイメージで体を動かす。 ・一本橋を進みながら、対面する友達と「ドンじゃんけん」をして遊ぶ。 ・一本橋の下にワニがいる、というイメージで作ったワニを使って友達と関わる。 ・一本橋を起点にして、運動遊具のある場で遊具に触れたり、動いたりする。 	<p style="text-align: center;">○保育者の指導・援助 ★環境の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ★探検を題材にした絵本を用意して、イメージを膨らませ、遊び出すきっかけにする。 「セッセとヨッコラ ヒョゴーどうくつ たんけん」 「たんけんライト」「5ひきのこぶた ビービーブウ」 「うみのそこたんけん」「おぼけのたんけん」など ★形、大きさ、材質等、物の特性に応じて分類しておき、幼児が選んだり、取り出したりしやすいような場を構成する（空き箱、カップ、ペーパー芯、色セロファン）。 ★BGMをカセットに用意しておき、探検の雰囲気を楽しめるようにする。 ○製作が進まない幼児に対しては、他児の制作の様子を言語化し、作り方のヒントが得られるようにしたり、幼児相互で作り方を聞いたり、教えたりできるように、言葉を仲介しながら援助する。 ○完成時は製作の過程を振り返り、それまでの頑張りに触れて、喜びが一層高まるようにする。また、他児にも作品を丁寧に紹介する。 ★一本橋や綱ぐりなど、体を動かす場を設定しておく。幼児の思いを聞きながら、高さを変えたり、新たな場を作ったりして、繰り返し楽しめるようにする。 ○体を動かして遊びたい思いを受け止め、環境からのイメージを引き出して楽しめるようにする。 ○橋の下にワニがいる、網をクモの巣に見立てるなど幼児から出てきたアイデアを取り入れ、自分たちでイメージを膨らませる面白さを感じられるようにする。 ★用具や素材を自分たちで管理できるように、片付ける場所を相談しながら決めていくようにする。

- 生活：保育者や友達と関わりながら、生活の中で必要なことを自分でしようとする。
- 人とのかかわり：自分の気持ちや動きを出しながら、友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。
- 学び：興味をもったことを繰り返し試したり、じっくり取り組んだりする。

1 探検隊のイメージを共有できるように

イメージを共有し、楽しめるための工夫

- 探検隊はどのようなところに探検に行くのか、そこで何をするのかなど、イメージが湧くように、探検や森、海、ジャングルなどをテーマにした絵本を用意し、学級全体で触れて、様々なイメージを楽しんだ。
- 探検の雰囲気が出るような環境(洞窟、草のトンネル、火山、舟など)を幼児と共に作り、その場に関わって遊びが進んでいくようにした。保育者が土台を作ったところに幼児が手を加えたり、保育者が作った物をまねて作ったりすることで、場や物を作ることも楽しみながら、新しい展開が生まれていく姿が見られた。
- 探検に必要な物を作ろうとする姿が見られたので、イメージを形にしやすい材料や素材を用意して、一緒に考え合いながら製作を楽しむようにした。双眼鏡などは比較的作りやすく、喜んで作る幼児が見られた。

2 友達と言葉を交わし合う楽しさを感じられるように

友達に思いを伝えたり、思いを聞いたりしながら遊びを楽しむための工夫

- 友達と一緒に遊んでいく中で、幼児同士で思いを伝えたり、思いを聞いたりできるように、必要に応じて保育者が間に入っていった。保育者が全て代弁するのではなく、「〇〇さんが言いたいことがあるみたい。」「〇〇さんはどうしてそうしたのかな？」などと幼児同士で話をできるように促していくことで相手に思いを伝えようとしていたり、聞こうとしていたりする姿が見られた。
- 幼児が相互に相手の言葉に耳を傾け、思いを伝える等、会話を楽しめるためには、保育者が幼児との関わりを丁寧に行うことを心掛ける。幼児にとってのモデルとなるように、自身の言葉や振る舞いを常に意識することが大切である。

5歳児に向けて大切にしていること

〈生活〉

- 運動用具を用いての活動では、イメージに沿いながらも安全に遊べるように、幼児に考えさせながら安全な遊び方を身に付けていけるようにする。
- 遊ぶ、片付ける、集まる、食事をするなど、園生活の流れの区切りが分かって行動できるように、それぞれの場を楽しんで進める。

〈人とのかかわり〉

- 一人一人が自分のイメージや思いを出したり伝えたりできるように、また互いのイメージや思いを受け止めて遊びが進められるように、仲立ちする。
- 友達と気持ちが通じるうれしさや、つながりを感じている姿、一緒に遊ぶ楽しさを十分に共感する。



〈学び〉

- 自分なりにイメージを膨らませたり、友達に刺激を受けて遊びに取り入れられたりできるように、きっかけになるような絵本や歌、材料、場などを用意し、遊びの流れに応じて提示する。
- 様々な場面で一人一人のよさや、取組を認め、他の幼児に伝えることで、クラスの中で、一人一人が自信をもてるようにする。

事例2

4歳児	12月上旬	友達と一緒に表現遊び！楽しいね！ ～友達と役になりきってイメージを出し合いながら楽しもう～
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな役になりきってのびのびと表現する楽しさを感じる。 ・友達とイメージを伝え合ったり、共有したりして一緒に表現する楽しさを感じる。 	

活動の流れ・幼児の姿	○保育者の指導・援助 ★環境の構成
<p>好きな役になって遊ぶ。</p> <p>① 魔法使い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帽子やほうきなど作ったり、身につけたりする。  <p>② 恐竜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BGMの曲に合わせて大きな動作や吠える声など、恐竜らしい動きで他のグループに関わる。 <p>③ 忍者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーを誘い合って修行の場を作り、BGMを聞いて動き方や術の動きを工夫する。 <p>④ ダイバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸素ボンベを作り、海に潜ったり、泳いだりする動きをする。 ・海に来た他のグループの友達との会話を楽しむ。  <p>⑤ 海賊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海賊たいそう」のリズム遊びをする中で、グループで決めのポーズを考える。 <p>⑥ コック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コックの衣装を着て、自分なりにフライパンを振る、包丁を使うなど料理の動きを楽しむ。 ・それぞれに使っていた物や場の片付けをする。 ・学級で集まり、グループごとに今日の取組で楽しかったことを発表する。 ・他のグループについて気付いたことを発言したり、質問したりする。 	<p>★好きな役ごとにグループを編成しておく。</p> <p>○自分なりの言葉で表現している姿を受け止めながら互いに話を聞いたり、認め合ったりする雰囲気を作る。</p> <p>○役になりきって楽しんでいる姿を言葉や表情でさり気なく認め、周囲の幼児への刺激とする。</p> <p>○停滞している様子のグループには、保育者も一員となって、大きな動きや会話を楽しむことでグループの一体感を高めていく。</p> <p>★恐竜や忍者など、動きや装置が大きいものは他のグループとの距離や場の使い方に留意し、安全な遊び方で活動が進むように配慮する。</p> <p>★幼児の動きを見て必要な材料を用意したり、伸び伸びと表現できるように場の再構成を行ったりする。</p> <p>○グループごとの遊びの内容や遊び方について、会話を通して捉えていく。動きを見ながら、グループに合うようなBGMを提示して、幼児がその雰囲気を楽しみながら動いたり、必要なものを作ったりできるように方向付ける。</p> <p>★製作コーナーには、遊びのイメージに合うような素材を選びやすいように用意しておく。</p> <p>○役になりきって動く姿を認め、それぞれの遊びのイメージに浸れるようにする。</p> <p>○遊びの様子を見て、区切りのよいところで「片付け」に向かえるようにする。</p> <p>○グループの取組を相互に伝え合う場を楽しめるようにする。そのためには、保育者が各グループに関心をもち、質問の仕方のモデルを示し、各グループの特性やよさを取り上げて全体の場で認める。</p> <p>○役になりきって表現する楽しさを感じられるように、翌日の活動への期待を高めたり、活動の内容が明確になったりするように働き掛ける。</p>

生活：生活に必要なことが分かり、自分でできることは自分でしようとする。
人とのかかわり：クラスの友達と一緒にする楽しさや友達とのつながりを感じる。
学び：様々な活動に取り組む中で、試したり工夫したりして自分の力を出していく楽しさを味わう。

1 忍者のかわいい術を見せよう

役になりきったり、友達とイメージを共有する楽しさを感じたりするための工夫

- ・ 忍者のリズム遊びは共通に体験している。それを基に、さらに忍者らしい新たな表現をグループで一緒に考えるために、絵本やDVDの視聴などを学級全体で見たり、動いたりするようにした。
また、「挑戦状」として「忍者の巻物」をグループに届けることで、「挑戦を受ける」という思いをもって自分たちでいろいろな難しい動きを作り出すことを楽しめるようにした。
- ・ 自分なりの動きをそれぞれが出し合う中で保育者が一人一人の動きを認めていくようにした。そのことで、他児の動きにも目を向けて「いいね。」と言って、同じ動きをまねる姿が見られた。自分なりのイメージで伸び伸びと表現しながら、忍者という共通のイメージで仲間たちとの一体感を感じて、忍者になりきることを楽しむ姿が見られた。



2 それぞれのかわいいところを見せ合おう！

なりきる楽しさを生活発表会へつなげるための工夫

- ・ グループごとに表現を見せ合う場では、見る側の望ましい姿を取り上げることで、「よく見る」「よく聞く」ことへの意識が高まった。
- ・ 友達に認められたことを喜び、積極的に工夫した表現を見せる姿が見られ、さらにその変化について「前よりかわいい！」と認められることが幼児の自信につながっていった。「発表したい」というグループが増えてきて、工夫された表現が見られるようになり、生活発表会という目的に向かう気持ちが高まってきた。



5歳児に向けて大切にしていること

〈生活〉

- ・ 自分のことは自分でしようという気持ちを大切に、用具の使い方を丁寧に分かりやすく伝えて安全な遊び方を一緒に考えたり、試したりする経験を重ねていく。

〈人とのかかわり〉

- ・ 自分の思いを相手に出せるように促したり、言葉を足したりするなどの援助をすることで、思いが相手に伝わるうれしさを感じられるようにする。また、相手の話が聞けるようにすることで、自分とは違う思いがあることに気付けるようにする。

〈学び〉

- ・ 様々な材料や素材を自由に使い自分なりに形にする楽しさを味わえるように、個々のイメージに合った用具や材料の使い方を知らせていく。
- ・ 遊びの中で友達とイメージを共有する楽しさを感じられるように、保育者が一人一人の動きを認めたり、それぞれのイメージの共通点や相違点をつぶやいたりしながら気付かせていく。